

福祉 ぐんま

NO.240
2012 春号

 社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会



■主な内容

- *ぐんま子育て支援フェスタ…2
- *平成23年度日常生活自立支援セミナー…3
- *平成23年度苦情解決セミナー…3
- *館林市社会福祉協議会「た〜てん」…4 寄付紹介…4
- *平成24年度事業計画…5 赤い羽根情報…5
- *ボランティア情報…6~7
- *素敵な笑顔…8
- *介護福祉士等修学資金貸付制度…8
- *福祉まめ知識…8

児童養護施設希望館八幡の家
田中 友梨さん
(関連記事は8ページに掲載)



「福祉ぐんま」の作成経費として共同募金配分金を使用しています。

ぐんま子育て 支援フェスタ

2月22日(水)に、群馬県社会福祉総合センターにおいて、子育て支援センター職員専門性の向上、各支援センターの活動内容、そして、手づくりおもちゃの展示などを通して、より多くの子育て関係者に子育て支援センターの役割等を理解していただくことを目的に初めて開催されました。

○開催の背景

核家族化や地域の繋がりの希薄化などにより、親同士が日常的に交流できる環境や子ども同士が気軽に遊べるような場を見出すことが難しくなってきました。



手づくりおもちゃ

そこで、平成21年に組織化された、ぐんま子育て支援センター連絡会を中心に、群馬県、群馬県社会福祉協議会と連携しながら、子育て支援センター職員の専門性の向上、各支援センターの活動内容、そして、家庭でできる身近な素材や廃材を活用した手づくりおもちゃの展示などを通して、より多くの子育て関係者に子育ての楽しさ、子育て支援センターの役割を理解していただくことを目的に開催しました。

○フェスタのプログラム

フェスタのプログラム構成は、子育て音楽トーク、講演会、手づくりおもちゃ・支援センターパンフレットの展示の三部構成で実施しました。

○子育て音楽トーク

二木秀幸氏、中邑由美氏による子育て音楽トークでは、バリトンの二木氏、ピアノの中邑氏の息のあったトークと音楽により、絵本の読み聞かせも、音楽を加えることにより、感性も広がり絵本の楽しさをより膨らませる効果があることを説明してくださいました。

○講演会

講演会では、2009年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールで日本人初の優勝を果たした、辻井伸行氏の母である辻井いつ子氏による「あきらめ



辻井いつ子氏



バリトンの二木秀幸氏とピアノの中邑由美氏

○手づくりおもちゃ・支援センターパンフレットの展示

手づくりおもちゃの展示では、延べ202名の来場者があり、県内26の保育所(園)並びに支援センターから、普段各施設で実際に活用している手づくりおもちゃの提供とその作成のためのレシピが提供されました。また、子育て支援センターのパンフレットは、34の支援センターから提供があり、フロアに展示されました。

○今後の課題

地域の繋がりが希薄化するとともに、長時間労働など多様な就労形態等により、父親の育児参加が十分に得られないケースも少なくありません。そのような中で、子育てが孤立化し、負担感も大きくなっていく状況が窺えます。

子育て支援センターは、子育て家庭にとって身近な地域の拠点として、子育て支援の中核的機能を担うことが期待されています。親同士の出会いと交流の場であり、子どもたちが自由に遊び、かかわりあう場でもあります。

親は親で支えあい、子どもは子どもで育みあい、地域の人たちが親子を温かく見守ることが、子育て・子育てにおいては必要不可欠です。

このような役割が子育て支援センターに求められています。



おもちゃを参考にする来場者



平成23年度日常生活自立支援セミナー開催

平成24年1月26日(木)、県社会福祉総合センター8Fホールにおいて「日常生活自立支援セミナー」が今年も開催されました。

今年は、和泉短期大学児童福祉学科准教授の鈴木敏彦氏をお招きし、「日常生活自立支援事業の新たな役割」というテーマで講演いただきました。



鈴木敏彦氏



群馬県社協 下城会長

本セミナーは毎年、「日常生活自立支援事業」を広く県民に広報啓発していくことを目的に開催しています。

今年は平成24年1月26日(木)に新前橋の県社会福祉総合センターにて開催いたしました。

講演内容

鈴木先生は、神奈川県にある和泉短期大学で教鞭をとられています。厚生労働省で委員、講師なども務められ、また、ご自身も社会福祉法人理事として施設運営をされています。今回は、日常生活自立支援事業の新たな役割を、障害者の権利擁護の視点から講演いただきました。

参加者の状況

参加者の約半数は日常生活自立支援事業の生活支援員さんでした。男女別では女性が7割を超え、年代別では60歳代以上が約半数でした。アンケートでは、「非常に参考になった」「参考になった」の意見をあわせると、90%を超えました。

参加者からの声

ご協力いただいたアンケートには「話しも解りやすく、感銘を受けた」「障害者の権利擁護について再度考えるきっかけになった」「法制度の背景が勉強になった」等の意見をいただきました。

平成23年度苦情解決セミナーが開催されました

平成24年2月13日(月)、県社会福祉総合センター8階ホールにおいて、「苦情解決セミナー」が開催されました。

今年は、「福祉サービスにおける苦情解決の意義を考える」今、福祉現場に求められるもの」というタイトルで、日本社会事業大学専門職大学院教授であり、日本老人福祉財団理事長の田島誠一氏を講師に招き開催しました。

田島先生は、リスクマネジメントの重要性や、苦情受付担当者だけが受け付けるのではなく、組織全体で対応していくことが重要であること等をわかりやすく講演されました。

事例報告者には県内の施設から、特別養護老人ホーム第二光明園施設長の茂木泉氏、東光乳児院施設長の本間正彦氏をお招



田島誠一氏



きました。それぞれの施設の概要、苦情解決体制の説明、事例報告等をいただきました。

参加者からは、「苦情に対する考え方が変わった」「また田島先生の講演が聞きたい」などの声がよせられました。

今後とも、利用者の声が福祉サービスの向上につながるよう引き続き積極的に取り組まれることを望みます。

会場の定員の関係もあり、申し込みをいただきながら、多くの方にお断りさせていただきました。この場をお借りしておわび申し上げます。



館林市社会福祉協議会イメージキャラクター「たくてん」は、「第四次地域福祉活動計画」策定記念として、平成22年2月22日午後2時22分22秒に館林市に舞い降りてきました。

名前は、みんなに親しまれ、活動の目標は、地域社会での明るくかわいらしく、呼びやすいようにと「たてばやしへ舞い降りた福祉の天使」から、たてばやしの「た」と天使の「てん」を取り「たくてん」と命名しました。

群馬県東部に位置する館林市社会福祉協議会イメージキャラクター「たくてん」。平成24年2月22日に2歳の誕生日を迎えました。今回地元で活躍する社会福祉協議会のイメージキャラクターについてご紹介します。

社会福祉協議会のイメージキャラクター大活躍!! 館林市社会福祉協議会「たくてん」



「出会い・ふれあい・支えあい」の輪をさらに広げ、市民のみなさんとの交流・連携・協働を深めながら「優しさ」と安心の「まわづくり」を推進することです。

普段は、特技のサッカーを通じて、「たくてん」の家（館林市総合福祉センター）をメインスタジアムに地域での福祉活動の推進や福祉のまちづくりのお手伝いをしています。

今後は、出張や外出を増やし、強いキック、しつかりとパス、シュートで「出会い・ふれあい・支えあい」の輪をさらに広げ、「たくてん」パワーで日本中のみんなを笑顔にしていきます。

ありがとうございます

本会にご寄付をいただいた皆様です。(平成23年4月～平成24年2月)
心より感謝いたしますとともに、趣旨に沿うよう活用させていただきます。

(順不同)

- 【前橋市】 群馬カラオケ連盟様
ぐんまぼかぼかマーケット様
(財団)上毛新聞厚生福祉事業団愛の募金様
- 【高崎市】 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様
- 【渋川市】 伊香保国際カンツリークラブ様
- 【東京都】 NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様

県内高校生有志による「ぐんまぼかぼかマーケット」様よりチャリティイベント収益金の寄贈の様子



平成24年度事業計画

基本理念「県民だれもがともに支え合い、住みなれた家庭、地域で、その人らしく安心して暮らせる福祉社会の実現」のもと、地域住民をはじめ、県内の各種関係諸団体等との連携・協働により地域福祉を推進してまいります。

実施計画1

地域におけるきめ細かな福祉活動の展開

- 住民による地域福祉活動の活性化促進
- 共同募金活動の推進と社協の連携
- 地域における民生委員・児童委員活動の一層の推進
- 預託者からの善意に基づく就学援助金等給付事業の充実
- ボランティア・市民活動、NPO法人等による地域福祉活動の推進、福祉教育の充実
- 福祉分野における防災、災害救援活動の強化
- 地域福祉等推進特別支援事業
- 低所得者・失業者等への生活支援の強化

実施計画2

福祉サービス利用者等の権利擁護活動の推進

- 地域における権利擁護体制の構築
- 運営適正化委員会への支援の強化
- 虐待や悪質商法被害の防止、早期発見・対応に向けた取り組み

実施計画3

社会福祉法人・施設等の福祉サービス事業者への支援

- 社会福祉法人・施設における次世代リーダーの育成
- 地域における子育て支援の推進
- 福祉サービス第三者評価の推進
- 社会福祉法人・社会福祉施設への支援
- 種別協議会活動への支援

実施計画4

福祉サービスを支える福祉人材の確保への取り組みと人材育成への貢献

- 福祉マンパワーセンター機能の強化と職業紹介事業の拡充
- 福祉・介護人材確保対策事業の推進と定着支援の強化
- 研修事業充実による人材育成への貢献
- 福利厚生事業による福祉人材の確保支援

実施計画5

地域福祉を推進する県社協機能と組織の充実・強化

- 法人運営の強化
- 社協職員の専門性の向上
- 各種社会福祉団体の活動支援
- 社協の広報機能の強化
- 社会福祉振興基金の運営

赤い羽根共同募金 赤い羽根情報



社会福祉法人 群馬県共同募金会

前橋市新前橋町13番地の12
群馬県社会福祉総合センター4階
TEL027-255-6596 FAX027-255-6214
e-mail:info@akaihane-gunma.or.jp

配分申請用紙のダウンロードはこちら >> <http://www.akaihane-gunma.or.jp/>

県内各地で稼働中！
募金ができる自動販売機



売上の一部が、赤い羽根共同募金として寄附されます。詳しくは県共同募金会までお問い合わせください。

県共同募金会
市町村社会福祉協議会、市役所、町村役場、町村役場、

◇申請方法◇
所定申請用紙（本会HPからダウンロードできます）を県共同募金会事務局（県域で実施する事業及び施設整備）、または市町村の共同募金会窓口（車両や備品の購入、市町村域の事業）へ提出してください。※申請書提出先は、配分申請事業によって異なりますのでご注意ください。

◇申請受付期間◇
4月2日（月）～5月10日（木） 必着

◇対象事業◇
25年度に実施する民間社会福祉事業。地域福祉推進のためのNPO・ボランティア団体活動や、障がい者グループホームの備品整備など対象になります。詳しくはお問い合わせください。

◇対象◇
県内で事業を行う社会福祉法人、更生保護法人、公益社団（財団）法人、一般社団（財団）法人、特例民法法人、特定非営利活動法人、ボランティア団体など

赤い羽根は地域の福祉を応援します！
県民の皆さんから寄せられる赤い羽根募金とNHK歳末たすけあいを財源として、24年度共同募金配分申請の受付を開始します。

共同募金配分申請の受付開始

災害支援は、被災という生活課題を抱えた住民の支援 ～ 平成23年度災害支援セミナーより ～

県内の社協職員を対象に、「なぜ、社協が災害支援に取り組むか」とのテーマの下、全国社会福祉協議会の災害支援担当の園崎参事、全国的な支援にプロジェクトメンバーとして携わっている大阪府社協・西原副部長、宮城県社協・北川係長、釜石市社協・菊池係長らを講師に、「災害支援は被災という新たな生活課題を抱えた住民への支援活動」であることを認識すると共に、その支援の手法としての「ボランティア活動」、また、ボランティア活動を効果的に進めていくために「災害ボランティアセンターの運営の必要性」を被災地での実践事例等から学び、発災から復興での一連の流れを参加者間で研究・協議し、災害＝災害ボランティアセンター、災害ボランティア＝ボランティアバスではなく、地域の生活復興へ向けた長い支援の取り組みを見つめた時に、社協の日常活動の大切さや各種機関との日頃からの顔の見える関係づくりを再認識する機会となった。



ワークショップ「発災から復旧・復興へのプロセスを学ぶ」より

専門職同士がつながる仕組みづくりへ ～ 東日本大震災の支援活動をととして ～



「支援プロジェクトぐんま」会議より

東日本大震災により、本県に3,000名を超える方が避難してくる中、物資支援をはじめ、様々な機関や団体が協働して、この事態と向き合い、試行錯誤しながら支援活動を行ってきました。

群馬県社会福祉協議会では「支援プロジェクトぐんま」という名称で専門職同士が情報共有・連携できる場をつくり、群馬司法書士会をはじめ、群馬県精神保健福祉士会、群馬県社会保険労務士会、群馬県社会福祉士会、群馬県理学療法士協会、群馬県共同募金会等、地域の機関で支援活動を行った団体が参加し、それぞれの団体の取り組みを紹介し合いながら、情報交流を図った。

引き続き、専門職同士がつながることの出来る本会議を継続して開催していくと共に、県内へ避難されている方の支援も含めて、関係者が協働・連携できる仕組み作りを考えていきたい。

社会福祉協力校 伊勢崎市立南小学校

思いやりの心を持ち、進んで人のために役立つ児童の育成
～社会福祉協力校として～

1. 学校の概要

本校は伊勢崎市のほぼ中央に位置し、校歌に歌われるヒマラヤ杉をはじめ、プラタナスや桜の木をシンボルとしている。

学校教育の目標は、「やさしく」「かしこく」「つよく」を掲げ、福祉教育の目標として、「互いの良さや違いを認め合い、学びあい、支えあつてより良い社会を築き、思いやりの心を持って、共に生きようとする児童の育成を目指す。」とし、3カ年取り組んで参りました。

○具体目標

- ・思いやりの気持ちを持つ子(人間愛の精神)
- ・仲良く助け合う子(連帯・協力)
- ・進んで仕事をする子(奉仕・実践力)

2. 主な活動内容

(1) 全校活動

全校で行った活動では、「15タイム」「地域のお年寄りを運動会に招待する」「花いっぱい運動」「クリーン活動」「ありがとう集会」等があります。

(2) 児童会活動

児童会活動では、「あいさつ運動」「アルミ缶回収」「書き換え」を行い、収集した品は換金して募金にあてている。

(3) 各学年

1年「動物ふれあい教室」
生き物に関心を持ち、自分たちと同様に命を持っていることに気づいた。



動物ふれあい教室

2年「アイマスク体験学習」

アイマスク体験をとおして、目の不自由な人の気持ちや様子を知らるとともに、介助役の大切さにも気づき、相手の状況を理解して、優しく接する気持ちを学んだ。

3年「手話体験学習」

聴覚に障がいのある方との交流を通して、障がいへの理解を深めた。

4年「車いす体験学習」

車いすの初歩的な扱いや介助の仕方を知り、車いすを必要とする人たちの生活について理解し、共に生活していく意義を考えた。

「いのちを育む講座」

助産師の方を講師に招き胎児の成長や、親子の絆、出産の困難を乗り越え誕生する「命の尊さ」への理解が深まり、親子のつながりを再確認できた。

5年「心の健康」

思春期にさしかかる心の持つ悩みやストレス、その具体的な解決方法について考えるとともに、同様に関心を持つ他者への思いやりの心

6年「高齢者疑似体験学習」

高齢者の立場に立つて周囲を見つめながら、関わりについて考え、共に生活する意義を深めると共に、誰に対しても温かい思いやりを持って接することについて学んだ。

3. 3カ年の成果と課題

福祉協力校として見直した年間の福祉計画に基づき、全校、学年、児童会(委員会)の活動に計画的に取り組むことができた。各学年でのそれぞれの福祉体験活動を通して、児童にお年寄りや障がいのある方、身近な友だちや家族など、他者への理解が深まり、思いやりの心が育ってきている。また地域と関わる活動も多くあつたため、児童と地域の方々との交流が深まり、活動内容の幅を広げることができた。今後活動も継続させて、6年間の学校生活で様々な福祉活動を体験できるようにし、日常の中で自然に福祉意識が持てるような児童の育成を目指していきたい。

明和学園短期大学 学生、教職員有志による震災ボランティア

1月の末に福島県郡山市の幼稚園に、本学の系列幼稚園のこどもたちが用意したともチョコを群馬のキャラぐんまちゃんと共に学生が届けてきました。手遊びで盛り上がった後、学生が手品を披露。そして、みんなで歌をうたい、学生とぐんまちゃんがともチョコと手作りタペストリーをプレゼント。最後にぐんまちゃんと郡山のご当地キャラ「がくとくん」との交流。短時間でしたが、こどもの笑顔が広がりました。

私たちの訪れた郡山の幼稚園では玄関先にモニタリングポストが設置され、放射能値の低い日に限り1日30分の外遊びをするそうです。園庭の芝生は放射能値が高いため撤去され、積雪の中から黒土が痛々しく露出していました。こどもたちは、遊び盛りの今、その楽しみを享受できない状態にありました。原発事故の避難先になっている郡山ですら、こどもたちは安全のため制約の中で生活していました。

震災直後の義援金や募金も効果のあるものでした。しかし、本当の笑顔が戻るまでには、3年、5年とかかるでしょう。震災から1年。私たちにできることをもう一度見直すいい時期ではないでしょうか。明和短大では今、有志で福島幼稚園や保育園に室内遊びの遊具を送るボランティアを計画しています。



郡山市内での交流の様子

児童養護施設 希望館八幡の家 田中 友梨さん

春号表紙

素敵な笑顔

田中友梨さんは、高崎市にある児童養護施設希望館「八幡の家」に勤務されています。お仕事を始めて5年目、愛情を持って子どもたちと真正面から向き合う毎日を送っています。

***福祉職を選んだきっかけは？**

子どもが好きだったので、短大の保育学科に進学しました。児童養護の授業で興味を持ち、実際に実習やボランティアで児童養護施設に行ったことで、この仕事に就きたいと強く思いました。

***仕事の内容は？**

ユニット型養護施設で、幼稚園年中から中学生まで4人の子どもと一緒に生活して、生活全般の支援を行っています。料理、洗濯などの家事、授業参観や地域の育成会にも保護者として参加します。ケンカや言い合いもありますが、子どもも本当に可愛いです。希望館のモットーは「子どもから逃げない、どんな子どもに対しても、寄り添い、向き合い、あきらめない」。

***うれしかったことは？**

仕事を始めて1年目、子どもがなかなか受け入れてもらえませんでした。あきらめずにぶつかっていき、その子が心を開いてくれたときはうれしかったですね。退



園した子が会いに来てくれて、「園にいた頃は、よくケンカしたね」など思い出話をします。しつかり自立している姿を見ると、この仕事をやっていて良かったと思います。

***お休みの日は何をしていますか。**

友だちと会うことが多いかな。短大で和太鼓の部活に入っていて、いまもOGで「友龍太鼓」を結成して活動しています。高崎祭りにも参加したんですよ。山登りも好きで、これまで尾瀬、白根山、富士山などに登っています。

***これから福祉職を目指す人に一言**

色々なことがあった子ども達に愛情を与えてあげたいと思っていましたが、逆に子どもから教えられることが多いですね。子どもへの伝え方は一つではなく、声かけにも幾通りもあります。いろんな角度から見えてあげること、そんな気付きの眼を教えてもらいました。子どもが成長していくのと共に、自分も成長しているのを感じます。大変なときもありますが、毎日が本当に楽しいです。

撮影は、いつも登山に行くファッションでお願いしました。時間のあるときには、山登りのトレーニングのランニングも欠かさないと田中さん。明るく、元気な笑顔が印象的でした。

介護福祉士・社会福祉士を目指す方を応援します!!

介護福祉士又は社会福祉士の指定養成施設等に在学し、資格取得後に群馬県内の社会福祉施設等で就労する方を対象に、修学資金を貸し付けします。

貸付対象・条件

- ①県内の養成施設等に在学している者。又は県外の養成施設等に在学し、県内に住所を有している者。
- ②養成施設等を卒業後、県内に就職し、介護福祉士等として、介護等の業務又は福祉に関する相談業務に従事しようとする者。
- ③同種の修学資金を他から受けていない者。

貸付申請

申し込み手続き

4月下旬ごろから各指定養成施設等を通じて行います。

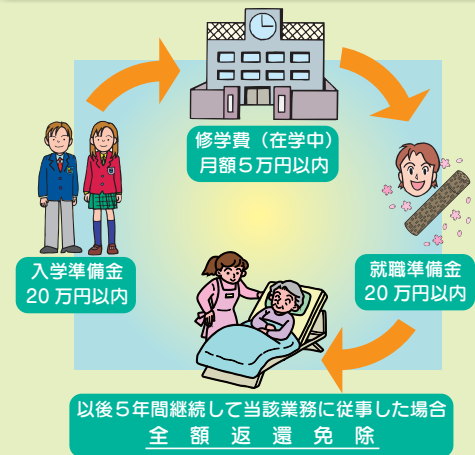
連帯保証人

貸付申請を行う場合には、独立の生計を営む者2人の連帯保証人が必要です。

貸付審査

提出された申請書の内容について審査し、貸付の可否を決定します。

介護福祉士等修学資金貸付制度について



返還要件

養成施設等を卒業後、1年以内に県内で介護業務等に就業し、原則として5年間継続して従事すれば、貸付金が全額返還免除となります。

福祉まめ知識

Q 「市民後見人」とはなんでしょうか。

A 市民後見人とは、一般市民による第三者的な立場の後見人です。

成年後見人等に就任すべき親族がおらず、本人に多額の財産がなく、紛争性もない場合等に、本人と同じ地域に居住する市民による後見が想定されています。認知症高齢者やひとり暮らしの高齢者等の増加に伴い、弁護士等の専門職の後見人だけではなく、市民を含めた後見人を中心とした支援体制を構築していく必要があるとされています。要支援者等への福祉サービスの適切な利用の観点からも、市町村において市民後見人を確保できる体制の整備・強化（人材育成、研修等）が求められています。

編集／発行

社会福祉法人 群馬県社会福祉協議会

〒371-8525 (専用郵便番号)

群馬県前橋市新前橋町13-12

群馬県社会福祉総合センター内

TEL 027-255-6033(代表)

FAX 027-255-6173

URL <http://www.g-shakyo.or.jp/>

発行日 平成24年3月31日